



増頁!  
がいぼり  
特集

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞  
井の頭  
吉祥寺  
15号

2014年3・4月号

2014年(平成26年)3月1日  
編集・発行 いのきちさん編集委員会  
編集長 川井信良  
東京都三鷹市上連雀1-12-17  
株式会社文伸 梨付  
電話 0422-60-2211  
FAX 0422-60-2200  
メール inokichi@bun-shin.co.jp  
協力 東京都西部公園緑地事務所  
東京都井の頭自然文化園  
井の頭恩賜公園100周年実行委員会  
NPO法人みか都都市観光協会  
社団法人武蔵野市観光機構  
制作支援 株式会社文伸/ふんしん出版

急に水が無くなった井の頭池では、大勢の人間が魚やカメを捕まえています。驚いたカモ次郎がアオサギに聞いてみると、「がいぼりと言って、この池を元の綺麗な池にしようとしているんだよ。怖がらずしばらく隣の普福寺池へ行っておいで。」と教えてくれました。カモ次郎はマカモと一緒に飛び立ち、アシの生い茂る普福寺池へ羽を休めました。

せのうさちこ

井の頭恩賜公園  
開園100周年まで  
あと3年2ヵ月

井の頭自然文化園

●彫刻館特設展  
「Animalee Zoo Project INOKASHIRA 在るモノと見えないコト 井の頭の動物たち」  
井の頭自然文化園をテーマに、油絵、水墨画、彫刻など、様々な素材で、日々変わりゆく文化園の様子や動物たちを表現している。苗田亜希氏の作品展を実施します。新作(200号のはな子の油絵等)あわせて30余点を展示します。  
日 時:平成26年1月9日(木)~平成26年4月6日(日) 9時30分~16時30分  
場 所:動物園(本園) 彫刻館B館

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園  
ネイチャー☆プログラム 次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- グリーンバード(井の頭池付近) 3月9日(日)、3月23日(日)
- ツリ☆マジック(第二公園) 3月8日(土)
- あおぞら実験室(井の頭池付近) 3月2日(日)
- どんぐり広場(御蔵山広場) 3月13日(木)

その他  
●猫の譲渡会(野外ステージ) 3月16日(日)
- 吉祥寺駅南北自由通路開通記念イベント(野外ステージ) 4月13日(日)
- 猫の譲渡会(野外ステージ) 4月20日(日)
- 吉祥寺音楽祭(野外ステージ) 4月29日(火・祝)
- AREA WEST(野外ステージ) 5月5日(月・祝)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.i-np.jp/index.html

井の頭かんさつ会  
●第107回「春をさがそう」 3月15日(土) 10:00~12:00  
●第108回「花」 4月13日(日) 10:00~12:00  
事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

『はな子』の半生が  
絵本になりました  
吉祥寺のフリースクールの  
生徒さんが取材

1500円+税

『アジアゾウはな子 67歳のお祝い会』が2月2日に開かれましたが、当日、絵本『ゾウのはな子 一だからココにいるんだよー』も販売されました。この絵本は、井の頭自然文化園のゾウのはな子の半生を描いたものです。絵本は、武蔵野市にあるフリースクール上田学園の生徒さんたちが、2006年から取材を始めて絵と文にまとめ、井の頭自然文化園の成島園長さんに監修をしていただいたものです。現在、吉祥寺や三鷹駅周辺の書店で販売中です。なお、1冊買うと87(はな)円が井の頭自然文化園の動物たちの飼育支援にカンパされます。

お問合せ:「ふんしん出版」電話 0422-60-2211まで  
写真:左から上田学園園長上田早苗さん 絵本を震災被災地に2千冊贈ったタイのサラサスさん

アートマーケットと  
ペンアーティストな人々

Allen's Craftさん(真鍮のバンダラ作家)

トントントントン……。真鍮を打つ槌の響きに、歩みを止める人の山ができます。20~30文字の好きなアルファベットが刻印された、腕の太さとカーブにぴったりの、世界にたった一つのバンダラが、ものの10分ほどで完成します。

「井の頭公園らしいお土産が作りたい」と、Allen's Craftの野崎浩孝さんは言います。加工しやすく、求めやすい価格の真鍮は格好の素材。

「思い入れのある言葉が入って、それをいつでも目にできるのはバンダラだからこそ。仮に同じ言葉を刻んでも、一つひとつばらつきができる。その人がいなければ完成しないところが、一番の価値なんです」。刻む言葉は、子どもや恋人の名前、座右の銘などなど。文字の組み合わせに悩んで、一巡りしてから、あるいは1週間後に訪れて、改めてオーダーする人が多いのだとか。

アートマーケットに参加し始めてから吉祥寺を好きになり、昨年7月には吉祥寺に、シルバーや真鍮のアクセサリー、革製品の工房を構えました。それでもほぼ毎週末、井の頭公園に出店しています。

小田原 濤 (おだわら みお)  
編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケットは、主に土日祝日に開催しています。3/21~4/13はお休みとなります。特別で4/30(水)は開催いたします。

はな子67歳のお祝い会  
— 今年のケーキは「あんまん」 —

毎年1月1日に誕生日を迎える、アジアゾウのはな子。2月2日にお祝い会を開催しました。雨の予報が出ており、万が一の場合は、彫刻館での開催も検討しましたが、天もはな子の誕生会を祝ってくれたのでしょうか?午前中少し雨がぱらついた程度で、無事に開催することができました。

昨年引き続き今年も武蔵野市長・三鷹市長、そして、タイ王国の大使や、はな子を日本に送っていただく際に尽力いただいたサラサス一家もタイから駆けつけてくださり、国際的なお祝い会となりました。

ちょっと寒い時期の開催となったため、はな子の体調を考慮し、短めのお祝い会でしたが、お祝いの言葉や、飼育係がはな子の日頃のケアをどのように行っているかなどの普段聞けないお話を聞くことができました。そして、お楽しみ誕生ケーキですが、今年は、タイ王国大使館から送られたイチゴと、なんと「あんまん」をメインに、飼育係の手作りのものが登場しました。

はな子も普段よりちょっと高級なおやつを喜んで食べてくれたようです。(井の頭自然文化園 教育普及係 大橋直哉)

井の頭公園の生き物たち

井の頭かんさつ会 田中 利秋 (たなか としあき)  
井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。

ニホンイシガメ

最大の朗報

日本固有種のカメです。メスは甲長20cmほど、オスは13cmほどになります。クサガメとの違いは、黄褐色の背甲に盛り上がった筋が1本(クサガメは3本)あり、後縁がギザギザしていること、首や頭が細く模様がないこと、尾が長いことなどです。環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種、東京都では絶滅危惧ⅠA類(極めて絶滅の危険性が高い種)に指定されています。数が減っている理由は、生息適地の減少、外来種ミシシippアカミミガメの生息・採食・繁殖に対する圧力、江戸時代以降に渡来した近縁のクサガメとの交雑などです。

見つかった子ガメ

「はな子」未公開キャラクターが登場

日本最高齢のゾウ、井の頭自然文化園の「はな子」の未公開キャラクターが登場しました。はな子を応援したい勝手達が作ったもので、お披露目は2月2日の『はな子 67歳のお祝い会』会場で、お祝い会に駆けつけてくれた参加者にははな子のシールが無料で配られました。

1月の前半に池にいたカイツブリはカッブルともう1羽。排水が始まった後も、彼らは日に日に浅くなる池から移動しようとはしませんでした。かえって小魚やエビが捕りやすくなったからでしょう。カッブルの縄張りであるお茶の水池にひとり者が侵入し、2羽に追われているのをよく目にしました。彼らが引越したのは、いよいよ水が無くなった1月24日。行き先は水がある弁天池です。しかし3羽が共存するには狭すぎるため、ひとり者は間もなく姿を消しました。さらに2月の初旬にはカッブルのメスもいなくなりました。住まいが狭くなるのがお気に召さなかったのでしょうか。雌雄対等のカイツブリの別れはちょっとドライです。

ところが、16日には再び2羽になりました。かいぼりはカイツブリの暮らした大きな影響を与えています。まだいろいろ起きそうですが、井の頭池に愛着を持つオスには、池が在来の小魚やエビで満ちるのを見届けてほしいものです。

ひとりになったオス(2月9日)

井の頭かんさつ会 田中 利秋 http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/

小魚、エビ類、水生昆虫、水草などを食べる雑食性で、陸上でも採食することがあるため、近年分布を広げている外来動物アライグマに襲われる例も増えているそうです。

井の頭池でも間違いなく絶滅危惧ⅠA類で、成体を見かけることもまれで、幼体(子ガメ)は近年まったく見つかりませんでした。ところが、がいぼりの準備期間中に、我々は子ガメを相次いで2匹発見しました。今回のがいぼりで明らかになったいろいろなことのうち、いちばんの朗報ではないかと思えます。子ガメが見つかったのは、ひょうたん池のアサザなどが生えている場所です。ニホンイシガメの幼体が暮らすには、水生植物が茂る浅い水域が必要なのです。そういう場所なら親ガメが産卵のため陸に上がるのも楽でしょう。がいぼりでは、他のカメ類が夏に見かける数のほんの一部しか捕獲されなかったのに、ニホンイシガメは見かける数より多い6匹の成体が発見・保護されました。このカメが耐寒性に優れていることと、冬眠場所が他のカメとは少し違うからではないかと考えています。

捕獲された成体は弁天池に放されました。春以降に再捕獲できれば、がいぼりが終わった池に戻します。井の頭池の将来を担う子ガメたちは現在大切に飼育されており、十分に暖かくなってから元の場所に戻される予定です。

3年に渡る工事、1年目の弁天池

▲重機で泥土が取り除かれた  
【写真提供:西部公園緑地事務所】

かつて井の頭池の水が抜かれたのは、昭和60(1985)年度から3年かけて冬に行われた「しゅんせつ工事」でした。水質改善のために池底の泥土を取り除く大規模な工事で、除去されたのは深さ30cm~1mの泥土。1年目には弁天池の6千㎡、2年目にはお茶の水池の9千㎡、3年目にはポット池の1万7千㎡合計すると約3万2千㎡、10トンのダンプカーで約5千台分に換算されます。

当時、西部公園緑地事務所でも工事を担当された宮本泰成さん(現・東京都公園協会公園事業部)によると、泥土の運び出しは本音に大変でした。公園には人が多いので、ダンプの出入りは特に慎重に計画しました。

そもそも掘り出した泥土は水分が多く、そのままでは運べません。弁天堂近くにあったプール内部に大きな鉄の箱を設置し、そこで泥にセメントを混ぜてから運び出したそうです。ちなみに3回の工事期間に掘り出された泥は東京都に運ばれ、葛西臨海公園の土となりました。

この工事は、玉川上水などに高度処理された下水処理水を流す仕組みづくりも含めた東京都の「清流復活事業」の一環として、多額の予算をつけて実施されました。

昭和30年代に深刻化した公害対策として、昭和40年代には公害対策基本法や自然環境保全法がつけられ、昭和50年代には河川や湾岸の水環境への関心も高まりました。そんな社会的背景あっての大規模工事だったので。

そして今回の「がいぼり」は、市民・地域との協働という画期的な手法での実施です。生態系や市民参加の意識が社会に浸透したからこそ実現できた歴史的な出来事といえるでしょう。

安田知代

1級合格者の特別ツアーを開催  
自然文化園のバックヤードと  
がいぼりを見学

2014.2.16

昨年12月に行われた「いのけん」の1級合格者の特典として企画されたのが今回の特別ツアーです。合格者へのご褒美と、井の頭公園の語り部・伝道師となって活躍していただく期待を込めての一同顔合わせです。大雪が残る2月16日、まず、自然文化園の案内とバックヤード(裏方部分)見学です。動物達のエサの備蓄倉庫、調理室、北村西望の作品収納庫という、普段見学できない所を見学。また、展示中の「苗田亜希作品展」の作家自らの作品説明も聞けたおまけ付でした。昼食後は、参加者全員の自己紹介。やはり、1級合格者はすごいと思うような試験対策のご披露数々。

午後からは、井の頭池のがいぼり説明と池の底に下りる体験ツアーです。雪が積もる池底から見る景色を堪能した後、がいぼり工事の大変さや、がいぼりによる成果や課題等をお聞きました。

井の頭恩賜公園の歩み 第15話

28年前の水抜きは、池底の泥を除去するためだった

現在進行中の井の頭池の「がいぼり」。地域はもとより全国版のニュースでも取り上げられ注目を集めています。「昔も水を抜いたときに自転車がたくさん池底に沈んでいたと話してくれる年長者もいますが、昔っていつのこと?」何で水を抜いたのか?と疑問がわきます。今回はその「昔」のお話を探ってみましょう。

かつて井の頭池の水が抜かれたのは、昭和60(1985)年度から3年かけて冬に行われた「しゅんせつ工事」でした。水質改善のために池底の泥土を取り除く大規模な工事で、除去されたのは深さ30cm~1mの泥土。1年目には弁天池の6千㎡、2年目にはお茶の水池の9千㎡、3年目にはポット池の1万7千㎡合計すると約3万2千㎡、10トンのダンプカーで約5千台分に換算されます。

当時、西部公園緑地事務所でも工事を担当された宮本泰成さん(現・東京都公園協会公園事業部)によると、泥土の運び出しは本音に大変でした。公園には人が多いので、ダンプの出入りは特に慎重に計画しました。

そもそも掘り出した泥土は水分が多く、そのままでは運べません。弁天堂近くにあったプール内部に大きな鉄の箱を設置し、そこで泥にセメントを混ぜてから運び出したそうです。ちなみに3回の工事期間に掘り出された泥は東京都に運ばれ、葛西臨海公園の土となりました。

この工事は、玉川上水などに高度処理された下水処理水を流す仕組みづくりも含めた東京都の「清流復活事業」の一環として、多額の予算をつけて実施されました。

昭和30年代に深刻化した公害対策として、昭和40年代には公害対策基本法や自然環境保全法がつけられ、昭和50年代には河川や湾岸の水環境への関心も高まりました。そんな社会的背景あっての大規模工事だったので。

そして今回の「がいぼり」は、市民・地域との協働という画期的な手法での実施です。生態系や市民参加の意識が社会に浸透したからこそ実現できた歴史的な出来事といえるでしょう。

安田知代



写真 古賀 親宗 (こが ともとのり)  
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

## 『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発行された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)

「いのきちさん」のホームページができました！更新中！  
<http://www.inokichisan.com/>  
 「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付ています。  
 inokichi@bun-shin.co.jp  
 「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。



かいぼりに駆けつけた田中さん (2014年1月26日)

川井園長(かわい けんじ)  
70年代80年代に「三鷹の川」/「たかみ」や「みたか」などを発行  
 (聞き手・写真・川井信良)  
 たなかじゅんいち  
 (現在・公益財団法人東京都公園協会勤務)

### 私と井の頭公園 その15

#### みんなで楽しく気長に続けていくことが大切

田中淳一 (小金井市在住)

井の頭池のかいぼりが始まった。管理する東京都西部公園緑地事務所は、2011年から本格的にかいぼりを検討してきたが、その推進メンバーの人が田中淳一さんであった。

静岡富士市の育ちです。小学生の頃、田んぼや小川でドジョウを捕まえたりして、自然の中でよく遊びました。そんな影響もあったと思います、千葉大園芸学部に進み、都に造園職として就職しました。

井の頭池のかいぼりは、西部公園緑地事務所に勤務している時、開園100周年を前に池の浄化が問題になり、かいぼり担当になりました。2011年と12年です。かいぼりは農業用水池などの浄化方法として伝統的なやり方ですが、最近では、公園や皇居などでも浄化と外来生物駆除のために実施しています。そんな各地を取材し、生態系を元に戻すことがいかに大切か学んだり、市民が参加した事例に感動もしました。

井の頭池では井の頭恩賜公園100年実行委員会や井の頭かんざつ会など、市民の方々がすでに行動を起こされていましたので、井の頭池のかいぼりは市民の方々と一緒に調査・検討を進めました。皆様は感謝しています。しかし、生態系を元に戻すことは簡単ではありません。だから今回のかいぼりをきっかけに、市民の皆さんと楽しく気長に続けて、もっと素晴らしい井の頭池にしたい。でも、かいぼり実施の前に異動になってしまい、いやー残念でしたが、後任者に託しました。

そして、かいぼり当日、市民ボランティアの皆さんが楽しく外来生物の駆除に参加している。報道機関も大きく取り上げてくれて、多くの人が関心を持ってくれた。本当にうれしいですね。私もかいぼりの手伝いに参加したのですが、感無量でしばらく、皆さんが楽しく一所懸命やっている姿を見続けてしまいました。(笑)

# 田中利秋の井の頭池かいぼりレポート

## 約25年ぶりに現れた池底

ポンプによる排水開始から6日後の1月24日、ついに池底が露出しました。その光景はまるで泥干場。泥の深さは予想を超えていました。水草(沈水植物)は1本もありません。魚たちは、お茶の水池の中央とポート池の池尻に残った水たまりに集まっているようです。



隣の小中学校の生徒や、専門学校の学生も団体で参加しました。その期間中、外来魚も在来魚も、イベントで獲れた以上の数が捕獲・救出されました。



## 来園者への説明



イベント時の展示・解説テントが、常設のかいぼりステーションとして生まれ変わり、生態工房、かいぼり隊、かんざつ会のスタッフが交代で来園者にかいぼりの説明や獲れた生き物などの展示・解説を行っています。池に捨てられていた物、池底の泥、かいぼりの道具なども展示されました。3月14日まで開設される予定です。捕獲結果などは100年実行委員会のHPIにも掲載されます。



## 盛り上がったかいぼりイベント(1月25・26日)

参加したのは、主催・管理の西部公園緑地事務所など都職員、作業統括の生態工房、コアボランティア「井の頭かいぼり隊」、半日ボランティア「おさかなレスキュー隊」、井の頭自然文化園、東京吉祥寺ライオンズクラブ、そして井の頭かんざつ会などです。各地の活動団体からの応援もありました。

捕獲が開始されると、コイ、ソウギョ、アオウオ、ハクレン、フナ類、オオクチバスなどの大型魚が次々に陸揚げされました。すべての生き物は仕分けテントに運ばれ、外来種と在来種に仕分けられ、計測・記録されます。在来種は種類により、水生物園水路の「いけす」か、今回はかいぼりをしない弁天池に放されました。2日間の捕獲数は、外来種約5,700匹、在来種約3,000匹でした。

## 大変な排水作業

今回のかいぼりでいちばん大変だったのは池の排水でしょう。神田川へ泥水や魚を流すことは許されず、川が溢れないよう1日2,000トン以上の水を流すことが必要で、その水源の弁天池の水位が下がらずとも上がりすぎもしないよう常に監視しなければならなかったからです。最初の入札に応札がなく、かいぼりが遅れることも心配されましたが、請け負った小川設備工業所が工事を急ぎ、イベントに間に合わせてくれました。底泥が深すぎて土木機械を入れられないため、その後は現場監督がたった1人で手作業のみお筋(排水溝)を掘りました。彼は水位の監視やポンプの管理のため何日も現場に泊まり込んだそうです。



## その後も続いた魚獲り

イベントで獲り切れなかった大型魚、多数の小魚やエビが残りました。水たまりの水を抜き、できるだけ多くの生き物を捕獲・救出する作業が地道に続けられました。近



美しい井の頭池を取り戻したい。多くの人の願いがひとつになり、外来魚駆除と水質改善を目指す「かいぼり」が実現しました。

## ビックリ! 生き物

驚くような魚がいなかったかよく聞かれるので、ちょっとご紹介。



大きいものは全長1.3m。井の頭池最大の魚です。ソウギョ(6匹)より多い4匹もいました。中国原産で、貝類など底生動物食ですが、井の頭では植物も食べていたようです。

雷魚とも呼ばれる。東南アジア原産の肉食魚。昔はかなりの種類が井の頭池で熱帯魚が生きられるわけがないのに、捨てられています。

プレコは南米(アマゾン川など)原産のナマズの親戚。死体でした。井の頭池で熱帯魚が生きられるわけがないのに、捨てられています。

こちらは生きていた怪魚。全長98cmでした。琵琶湖の固有種ですが、飼育している人がいるそうです。必ず大きくなりすぎて持て余すのに。

## 保護が間に合わなかった在来種

1月25日から2月12日までの間に獲れたハゼ科の魚はヌマチチブが2,737匹だったのに対し、トウヨシノボリは48匹のみ、ウキゴリは1匹も見つかりませんでした。また、テナガエビ2,253匹に対して、スジエビはわずか3匹です。いずれもほんの数年前は必ず見られたのに、今は絶滅寸前か絶滅してしまったようです。



井の頭かんざつ会は平成25年度の調査活動でオオクチバスを約4,300匹、ブルーギルを約82,200匹捕獲しました。かいぼりで獲れた数がそれぞれ1,159匹と11,238匹ですから、外来魚の圧力が減ってヌマチチブとテナガエビは数を増やすことができたようです。それに対して、それより弱い生き物は追い出され、残っている肉食魚から逃れることができなかったのではないかと思います。

## 子育てができない池

コイ、フナやナマズなどはやはり大きな個体ばかりでした。それらの魚は水草が生えた浅場がないと繁殖できないのです。

## 二枚貝がない

タナゴ類の繁殖に必要なカラスガイなどの二枚貝は、かなり以前に絶滅したとされています。今回あちこち探しましたが、見つかったのはやや古い貝殻だけでした。大量のコイや予想以上に多かったアオウオなどが二枚貝絶滅の原因がもたらしたようです。



## ものすごい注目度

水が無くなった池やかいぼり作業を見に、大勢の人が来園しました。報道陣も多数押しかけ、池の問題を解決する取り組みがテレビや新聞やネットなどで全国へ報じられました。公園の関係者もこれほど注目されるとは想像していなかったでしょう。全国への波及効果に期待してまいります。

## 捕まえられなかった生き物

外来種のミシシッピアカミミガメ、アメリカザリガニ、ウシガエルを捕獲できなかったのに、ほとんど見つけれませんでした。泥に落ちて隠れているようです。在来種のクサガメ、スッポン、ドジョウなども同じだと思います。



## 混水と在来種放流

底泥中の養分を大気に逃がすため、当初は2月いっぱい池底を天日干しする計画でしたが、花見に間に合うよう2月24日に給水を始めました。相次ぐ積雪もあって底泥は乾きませんでした。外来魚もいくら生き残ったことでしょうか。今回解決できなかった問題は、平成27年度と29年度にも予定されているかいぼりで解決されはせずです。いけすで保護されている在来種は、3月中ごろ元の池に戻される予定です。

## みんなで良くする井の頭池

前例のない大事業は、3年ほどで異動していく都職員だけに任せてもなかなか実現しません。長年活動を続ける複数の地元団体に後押しされ、熱意があり前例にとらわれない職員によって、画期的なかいぼりが実現しました。かつて職員たちが駆けつけてくれたのも、かいぼりで嬉しかったことです。今回は市民ボランティアも募集。とくに、事前講習を伴うかいぼり隊には熱心な人たちが集まり、大活躍しました。かいぼり隊は今後も活動を継続するそうです。そんな気運がもっと広がれば、井の頭池は必ずよみがえります。

